

## おおたザクラ

荻町の本覚寺入口の左手にある大きな桜は、おおたザクラと呼ばれる遅咲きの桜で、花びらの大きさが特徴的な希少種である。樹齢は約 200 年で、5 月中旬に開花する。この桜の開花は、昔から農家の人たちに農作業の準備を促す合図として使われていた。おおたザクラが独立した種として認識されたのは、1969 年に画家でアマチュア植物学者の太田洋愛（1910-1988）が荻町を訪れた際に、本覚寺の桜がそれまでの桜とは違うことに気づいたことによる。さらに研究が進められ太田の主張が確認され、その新種を画家の名前にちなんで命名した。本覚寺の入り口の右側にも古いおおたザクラがあったが、1970 年の大雪で枝が折れて枯れてしまった。しかし、その木の根元から生えた新芽を使って、本覚寺の境内に数本の小さなおおたザクラを植えた。原木の種を使って日本各地の寺院や庭園にも植えられている。